

佐久間勉 ツネキミ 海軍軍人。明治十一年九月十三日福井縣三方郡八村生れ、四十二年四月十五日没（六十九）。明治三十四年海軍兵學校教程卒。日露戦争に従軍後、海軍水雷術練習所に入る。二十九年海軍大尉。四十一年第六潜水艇艇長となる。翌年山口縣新湊沖で潜水訓練中沈没した。遺書と認め、事故の詳細を記録しながら部下十二名と共に殉職。遺體引揚げ後発見せられた遺書は、當時國內は素朴、海外にも直傳せられ、廣く感銘を與へた。果して於ける海軍公葬には、會葬者二萬人餘を數へたといふ。

へ自然派の人が……滅多にないからといふ言辭のもとにロイツンを輕蔑するのは論理の昏亂である。……余は近時潜水艇中心死せる佐久間艇長の遺書を読んで、此ヒロイツンなる文字の、我等と時を同じくする日本の軍人によつて、器械的の社會の中を赫として一時に燃焼せられたるを喜ぶものごある。自然派の諸君子は、此文字の、今日の日本に於て猶真個の生命あるを事實の上ひ於て證據立て得たるを賀するものごある（夏目漱石）。その他、與謝野晶子にも挽歌十餘首を作らした。子いとも挽歌十餘首を作らした。

遺書は「佐久間海軍大尉遺書」（再版・明治四

十二年六月）二十五日水交社」と題し

て複製刊行。『殉難佐久間大尉』（成

田鋼太郎編、明治四十二年十一月十

六日博文館）が

である。

